

# 忘れられた叡智を求めて

## 第2回

そもそも「経済」とは、何か。

いま、その問いを、深く問うべき時代であろう。

なぜなら、これからの時代の資本主義の深化を考えると、この問いが極めて重要な意味を持つからである。

ではなぜ、それが重要になるのか。

いま、資本主義の根底にある「経済原理」に、大きなパラダイム転換が起こっているからである。

それは、端的に言えば、次の「五つのパラダイム転換」と呼ぶべきもの。

- ① 「操作主義経済」から「複雑系経済」へ
- ② 「知識経済」から「共感経済」へ
- ③ 「貨幣経済」から「自発経済」へ

## 「貨幣」の眼鏡を外したとき 見えてくる「陰の経済」

④ 「享受型経済」から

「参加型経済」へ

⑤ 「無限成長経済」から

「地球環境経済」へ

では、これら五つの「新たな経済」とは、それぞれ、どのような経済なのか。

それを理解するためには、まず「眼鏡」を外さなければならぬ。

「貨幣経済」という名の眼鏡である。

なぜなら、現代の金融資本主義の時代を生きる我々は、無意識に「経済」とは「貨幣経済」のことであると思いついでいるからである。

「貨幣経済」とは、「貨幣の獲得」を求めて人々が行う経済活動のこと。この経済においては、基本的に「貨幣で評価できる価値」のみが価値として認められる。



田坂広志

[多摩大学大学院教授  
シンクタンク・ソフィア  
バンク代表]

しかし、「貨幣経済」とは、実は、我々の社会における経済活動の一部にすぎない。そのことは、経済学ではなく、文化人類学を繙けば、すぐに理解できることである。

すなわち、人類の歴史においては、貨幣の発明によって「貨幣経済」が生まれる以前は、価値ある物と物を交換する「交換経済」が主流であった。そして、その前には、互

いの善意や好意によって価値ある物を相手に贈る「贈与経済」が主流であった。それは、「精神の満足」を求めて人々が行う経済活動のことであり、現代においては「自発経済」(ボランティア経済)と呼ばれるものである。

そして、この「ボランティア経済」は、人類の歴史を通じて、一貫して社会を支え

てきた経済原理でもあった。

例えば、家事や育児、家庭内教育や老人介護、地域の清掃や治安。こうしたボランティア経済は、貨幣経済からは「目に見えない経済」であるが、実は、人類社会を支え続けてきた経済活動に他ならない。この経済は、それ無しでは貨幣経済そのものが活動を停止せざるを得ないほど、重要な経済なのである。

そして、興味深いことは、この「陰の経済」が、インターネット革命を契機として、いま、世界的に影響力を増大させていることである。

そのことに気がつき、「貨幣経済」の眼鏡を外したとき、我々の目の前には、全く新たな風景が見えてくる。その新たな風景について、次回以降、語っていきこう。